



発行所 二本松市木ノ枝 山の会 編集 渡辺 正

編集部連絡先 二本松市木ノ枝 1-5-5 0243 (22) 4245 渡辺 正

新年おめでとーございます

昨年は山の会創立六十周年と言う節目の年を多くの会員と共に迎えることが出来たこと、又、数々の行事を行いつつも、無事故で新年を迎えることが出来たこと、重ねて深く感謝いたします。

一方、昨年度初めには会員相互の信頼関係を損なう出来事が発生。自浄能力も機能せず、山の諸活動にも暗い影を落とし、何とも気の晴れない一年でもありました。多くの先輩方が宮々と築いてこられた山の会の伝統や設立の理念が音もなく崩れ行く姿を見る思いです。本当に残念な出来事が有った昨年にはありませんでしたが、今年は傷ついた会員相互の信頼関係を取り戻すべく、新たな第一歩を踏み出す一年にしたいと思います。口で言うほど簡単ではないとは思いますが、焦らずに、確実に歩みを進めたいと思います。

会員の皆さんには引き続き積極的に主体性をもって山の会の行事等に参画して頂きますようお願いいたします。暮れには昨年開催できなかった忘年会を笑顔で開催できるように皆で励みましょう！

今年一年、会員の皆様の御多幸と安全登山、加えて安達太良山に上山される全ての登山者の無事下山を心より祈念いたします。

二〇一九 (平成三十一) 年 元旦

あだたら山の会会長 青木幹夫

十二月九日 (日)

十二月山行、新地町鹿狼山 (四三〇〇)

報告 中脇ゆき子



【参加者】佐藤タカ子、齋藤章子、佐藤富子、中脇ゆき子

【行動】初雪の朝。七時松川出発。飯野・川俣・月館を経て登山より高速にのる(現在無料開放)。表示された気温はマイナス一度〜二度。周囲の山々は薄い雪化粧。いくつもトンネル

を抜け、高速道が切れた所(この先は工事中)から、そのまま一般道に入る。ここより二十分程で鹿狼の湯登山口到着。九時。ここも二階くらい積雪。初雪だという。小雪がチラチラ舞っている。三十台分くらいの駐車場が満車。初詣に備えての登山道(参道と言

べきか)整備の方々だという。九時十分登山開始。大鳥居をくぐり、左側の樹海の森コースを辿る。整備の方々が落ち葉を掃き、水はけの溝を切っているの、とても歩きやすい。みれば若者が駆け下りて来る。半ズボンに素足!。この道を走って往復するのだという。私たちはおしゃべりをしながら、ゆるやかな道を歩く。うっかり四阿を通り過ぎかけた。ここからの眺望が良い。薄く雪を被った新地町が白く広がる。火力発電所の煙突から真っ直ぐけむりが上がっている。その向こうは太平洋。空が明るくなってきた。気持ちも明るく山頂到着。十時。山頂からは、ささぎるものなく海が見える。あそこから陽が昇る。オレンジ色の火の玉がぐんぐん昇るのだと想像する。初詣に集まった人達は、ここで万才三唱するのだと、整備の方が話してくれた。三角点を確認。鹿狼神社に参拝し、すぐ下の小屋で昼食。四人女子会。十一時下山開始。直後Sさんが声をあげた。「あっ! すみれ!」陽だまりの草むらに、小さく咲いていた。帰りは北コースをとる。石段が多い。名残の紅葉が彩りを添えている。所用四十分で登り口の大鳥居に到着。十一時四十分。帰路は相馬埠頭に立ち寄



初口の出は鹿狼山で 日本一早い山開き 記念品贈呈や豚汁振る舞う



る。山頂から見た煙突を間近で見ると、振り返れば鹿狼山。すっかり様相が変わってしまった相馬港付近の鮮魚店で、今夜のおかずを購入。こういうおまけがうれしい。今朝来た道に戻る。高速を下りてすぐの所に道の駅がある。ここで小休憩。松川着十五時。予定通り。完ぺき。

十二月十三日 (木)

十二月平日山行 黒森山、山行中止

報告 菅野善雄



二本松市伊佐沼からの黒森山全景、背景は吾妻小富士、
国土地理院地図では 左のなだらかな山が黒森山となっている

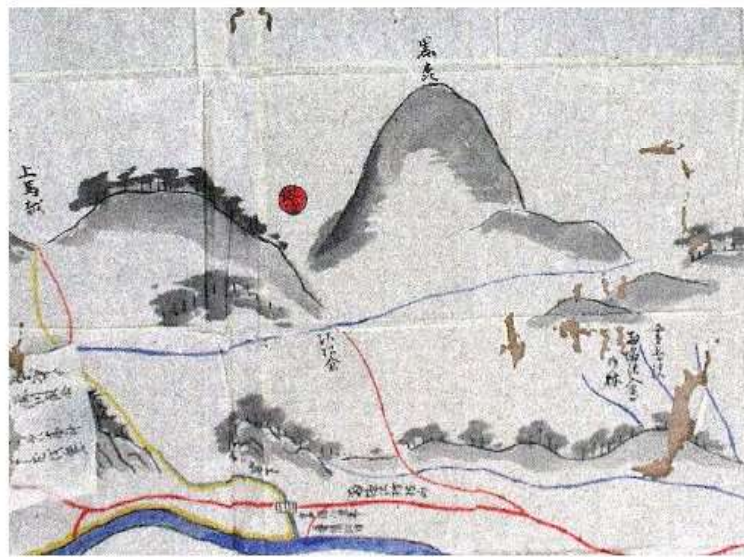
十二月十三日(木)、十二月平日山行、今回二回目の雪となり、安全第一を考慮、中止を決めた。黒森山(七六〇)はエビス牧場の裏山になり、二ツのピークから出来ている。二階山

(ニゲエー山)七三一(二階山)は地元の人に古くから親しまれて来た山、森林組合の許可も得る事が出来、地元山好き二人が気軽にトレッキング出来るコースを考えると、今年春にはほぼ完成、多



尖り、二階山

くの人達に楽しんで貰いたい
が宣伝不足。
《コース》
県道三五四号(安達太良山線)から「山の入りダム」入口から二又部落へ入る。部落を過ぎると車一台という狭い砂利道、約二、三キロ入った所が終点。ここが登山口となる。農地と雑木林の間を通り古い木出し道を登ると約五〇〇の高低差を登ると約五〇〇の小ピークに出る。ここからは二本松と旧安達町の界をエビスサーキット頭へ行く、右手の用水掘の木橋を渡る。二本松・旧安達町・福島市の界、直登すると山頂。途中より左へ入り山頂を巻く様に登る。大石の場所に出る。間もなく、民有林と国有林の界へ出る。左に黒森山、右へ山頂である。山頂からは安達太良、吾妻、蔵王連峰が眺望出来る。整備された山頂を楽しむ事が出来る。
春は山菜、秋にはキノコなども楽しむ事が出来ると思う。



尖っているのが 黒森

◆ ◆ ◆
【黒森山について、他】
黒森山については、江戸時代の絵図がある。「明治十六年/安達郡塩澤村/永田村境界事件/書類/福島県地理課」と言う書類綴りに入っている文化四(一八〇七)年八月の、「此所信夫御領三拾六ヶ村沢川組村々當六町南成田村油井村大平村渡辺富弥様各々入會場事」という図面。湯川に添った長さ三、四近くある、二一二年前の絵図。おそらく今の鉄扇橋から安達太良稜線まで一枚に描かれている。岳温泉は現くるがね小

屋の上にあった時代。(福島県歴史資料館蔵)。絵図で「黒森」は「尖り」に付いている。なだらかな方は七六〇、(「尖り」の方は七三一)。絵図の「沢松倉」は東北サファリパークの現住所。
大名倉山からも 黒森山はよく見える。岳温泉の上「尖り」の方が目立つ。話は別になるが、先の絵図は、明治になって湯元が塩沢村分なのか永田村分なのか争いになったとき、江戸時代からの関係図面が集められた時のもの。当時の県知事(縣令といった)山



大名倉山から見た黒森山、手前は苗松山



絵図の全体

吉盛典から内務卿伊藤博文に宛てられた。読んで見ると結果は永田村分となった。江戸時代に山の形や途中の景色など細部まで描かれた図面が残っているのは、現存の道も描かれている。特に珍しい。安達太良山は湯元が高いところであり、「登山」とは無関係に、江戸時代から歩かれていた山なので、現在登山道となっている道も描かれている。